

3 具体の実践内容

指導力向上部の取組

(1) 体育の授業における「丹後スタイル」の確立



体育主任による示範授業で共通理解を図る



重要! 重点目標は上記3点!!

校内での授業研究会を充実させ、次年度へよりよい指導法を継承するために、指導案の形式を統一して研究授業を行っている。また、年度初めには体育主任による示範授業を行い、丹後っ子パワーMAX!「丹後小 体育授業の進め方」を確立し、ねらいを達成するための学習活動、ねらいに対する振り返りを全授業で毎時間確実にを行うことをねらいとしている。また、前年度の反省をいかし「今年度の重点目標を設定」。

(2) スモールステップを意識した学習課題の工夫



授業の流れやめあてを掲示物や学習カード等で伝えることで、児童が見通しを持って授業に臨むことができる。また、本時のねらいを確認する際は、一時間一時間のねらいを明確にし、小さなできたで溢れる授業の実施を目指している。また、学ばべき学習内容をスモールステップで達成できるようにすることを意識して授業展開を考えている。

(3) 教材教具の開発



児童一人一人の運動量の確保や効果的にねらいとする動きの獲得を目指すにあたり、教材・教具の開発を行っている。教材づくりでは、ねらいとなる動きが児童にとって自己評価しやすく夢中になれる教材を、教具づくりでは、安価で手軽に大量に作れるよう工夫し、児童が思いっきり運動に取り組めることを目指している。

(4) 技能研修会



月	内容	担当者	月	内容	担当者
4	鉄棒運動	学団	10	ハードル走	尾形
5	体力テスト	教務主任	11	長縄	衛藤
6	水泳	教務主任	12	跳び箱運動	尾形
7	ゴール型	教務主任	1	ベースボール型	瀬戸
9	表現運動	瀬戸・衛藤	2	サッカー	尾形

毎月第3金曜日の放課後は技能研修会として年間計画に定めている。技能研修は「次の月に教える領域」についての内容を伝えている。体育主任(副主任)が指導することはもとより、学団の先生方がそれぞれの発達段階に応じた指導について話し合うことも大切にしている。来年度以降は体育だけでなく、様々な教科の内容でも取り組んでいく予定である。

(5) 思い切り運動できる場の確保



制約のある中でも思いっきり運動できる授業の実践を目指し、密接・密集を避け環境の整備を行っている。上の写真(左)は児童の待機線を一人ずつで示し、間隔をあけて授業に臨むことができるようにした。写真(右)は児童が自己の動きを確認して思考を深めようとしている場面である。そのような時でも床に目印を置くことで必要以上に近づくことを避けている。

(6) 集団で達成感を味わうことのできる学習活動



授業の中に意図的に集団での達成感を味わうことのできる活動を取り入れている。学級という一つの集団の中で、同じ目標に向かい仲間と協力しながら全力で取り組む姿勢を育てていくことをねらいとしている。写真左は2年生シュートゲーム。皆で的にボールを投げ、的を落とす活動。写真右は3年生ハードル走。時間内に30mハードル走に何本挑戦できたかを学級で毎日集計し、学級集団としての伸びを感じさせる活動。

環境充実部の取組

(1) 運動で一人一人が主役になれる取り組み



新体力テストや縄跳び大会等、校内の体育的行事でよい成績を収めた児童や業間運動の発表会で大幅な記録の向上が見られた児童に対して表彰を行っている。各行事に対して「校内で作成した賞状」と「校長賞」を授与している。また、各学年で身につけさせたい重点技能を「Tango マッスルチャレンジ」として掲示し、年間を通じて成果の見取りを行っている。

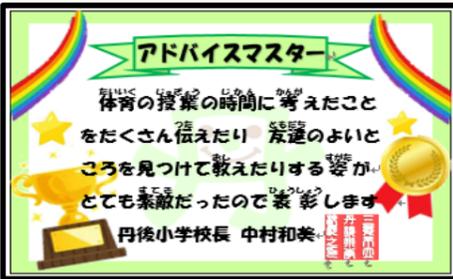
(2) 丹後っ子パワーMAX (休み時間の活動)



月	4-5月	6-7月	9-10月	11-12月	1-3月
種目	短距離走	ボール投げ	ドッジラリー	短縄跳び	長縄跳び
発表の場	陸上記録会	体力テスト	ドッジ記録会	縄跳び大会	長縄チャレンジ大会

業間休みや昼休みを利用して「丹後っ子パワーMAX」の取組を行い、運動の日常化を図っている。児童が継続して運動に取り組み、成長を実感できるように、「2ヵ月間の練習期間」→「成果の発表の場」というサイクルで年間を通じて様々な運動に触れることができるようにした。実施場所の広さや運動の特性を考慮し、密にならないよう計画・実施している。
※新型コロナウイルス感染症対策のため9-10月は実施せず。

(3) ほめほめカードの発行



児童の技能以外の頑張りにも着目したいという想いを「ほめほめカード」として形にした。安全に気をつけている児童や自分の考えを友達に積極的に伝えている児童等に対しカードを渡すようにしている。教師は3つの柱をバランスよく評価するための指針の一つとして活用している。児童にとっても技能以外の評価が可視化されたことで成果が実感しやすくなったと考える。

(4) 遊び掲示板の作製



遊びの中から体力を向上できるよう「遊び掲示板」作製した。低学年・中学年・高学年の発達段階ごとの遊びを用意した。また、様々な動き(領域)の遊びを用意することで体育の授業でも活用できるようにした。学級レクの時間や縦割り遊び等の時間に遊んでいた。また、体育の授業の感覚づくり運動の一つとしても取り上げていた。

(5) 委員会活動との連携

委員会	各委員会の取組
児童計画委員会	「児童会の歌」としてオリジナルダンスの作成
運動委員会	各種「運動教室」の開催&運営
福祉・美化委員会	オリパラ教育(ペットボトルキャップ回収)
給食委員会	残菜0キャンペーン等、食育全般
飼育委員会	裏校庭整備
集会委員会	オリパラに係る集会の企画&運営
図書委員会	オリパラ関連の本の掲示
放送委員会	お昼の放送にて各種取組状況の発信
保健委員会	歯科・睡眠等、保健教育全般

児童自らが体力向上推進研究と関われるよう、委員会活動と連携した取組を行った。高学年を中心として自分たちの活動が体力の向上に役立っていることを実感させることをねらいとした。

(6) 体力を高める生活習慣改善の工夫

体力を高めるためには学校のみならず家庭の協力も必要不可欠である。そこで、「マッスルビンゴカード」や「けんこうちょきんカード」を作成し、家庭での取組を行った。1~4年生は体づくりブック(カラチャレドリル)5・6年生は体づくりプリントを配付した。



(7) 健康教育の取組



一日の始まりと終わりには「姿勢と心を整える着座タイム」を実施。毎月第3水曜日は「はよねるでー」!(宿題もいつもより少なめです)。

(8) 食育の取組



低学年→担任の先生と学ぶ。中学年→担任の先生+栄養教諭と学ぶ。
高学年→担任+栄養教諭と学ぶ+専門家から学ぶ。(※5年→ミルク教室)

オリパラ教育の取組

(1) 道徳教育の充実



オリンピック・パラリンピック開催を目前にした6~7月にかけてオリパラに関連した道徳の授業を各学級で行い、関心を高めた。

(2) アスリートから学ぶ



スポーツの世界で生きてきた方々からスポーツの楽しさや夢を叶えるために大切なこと等スポーツを通して人生を学ぶ、素敵な体験を実施。

(3) ピクトグラム・国名を探せ



校内にピクトグラムやオリパラ参加国を掲示し、楽しみながらオリパラについて学べるようにした。